

地域福祉の充実をめざして、支える心のネットワーク。



赤い羽根共同募金

2014

9

SEPTEMBER



福祉ちば

編集・発行  社会福祉法人千葉県社会福祉協議会

No.163



フィールドスタディ 地域の福祉活動

〔芝山町〕菱田地区社会福祉協議会

エールちば

まつど市民活動サポートセンターの取り組み

特集 フードバンクちば

いきいきはたらく

福祉の資格とわたしの仕事

子どもたちを主役とした福祉活動を展開中!



第1回歩いて食べよう会に参加した元気いっぱいの子供たち

高齢者の見守りや学校行事への協力、さらに異世代交流や地域福祉フォーラムなど、様々な事業を精力的に展開している芝山町の菱田地区社会福祉協議会（以下、菱田地区社協）。年2回開催している「ふれあいサロン」をはじめとする多くの事業にたくさんの子どもたちが参加していることが菱田地区社協の特徴となっています。今回は、少子高齢化が進む地域でありながら、子どもたちを主役とした事業を展開する菱田地区社協の取り組みを紹介します。

受け継がれる「全村教育」の精神

芝山町の菱田地区は、前身の千代田村、菱田村であった時代から「全村教育」の精神が受け継がれ、子どもたちを“宝”と呼び地域全体で見守り続けています。そのような理由もあり、菱田地区社協の委員には、地元の町立菱田小学校の校長先生やPTA会長など、多くの教

育関係者が含まれています。そして、子ども会やPTA連絡協議会なども密接な関係が築かれています。そのため、年2回開催している「母と子のふれあいサロン」を始めとする多くの事業には、毎回たくさんの子供たちが参加。その特徴は、現在菱田地区社協が取り組んでいる「地域福祉フォーラム」にも色濃く現れています。

「地域福祉フォーラム」の主役は子どもたち

現在、菱田地区社協が取り組んでいる「地域福祉フォーラム」のテーマは「防災」。その理由はやはり、2011年に発生した東日本大震災です。初年度は、「地域福祉フォーラム」をより深く理解するために、すでに「地域福祉フォーラム」を進めている先進地区社協を招き、勉強会を行いました。そして取



参加者に振るまわれたたくさんのおにぎり

り組み2年目となる昨年の12月、「ふれあいサロン」の一環として防災訓練、その名も「第1回歩いて食べよう会」を実施しました。

「歩いて食べよう会」には、子どもたちを含め地区人口の1割にあたる76名が参加しました。その概要は、大きな震災が起きたと想定し、避難所に指定されている菱田小学校に徒歩で向かい、避難所ではどのように過ごすかなどを実際に体験するというもの。

集合場所を決め、ルート上の危険な箇



左から、菱田地区社協の庶務 大槻和男さん、会長 小川光子さん、副会長 鈴木幸子さん



7月7日に開催された「ふれあいサロン」で、子どもたちと一緒に作った天の川のパネル

所や、水が飲める場所の確認などを行いながら、避難所まで歩きました。避難所に着いたらまず、1人1枚、避難者カードを記入。室内に入ると、そこにはすでに段ボールで間仕切りをした避難者用のスペースが設置されており、子どもたちは実際にその中に入り、広さや居心地を体験しました。

そしてここから、何事も子どもたちを主役とする菱田地区社協らしく、段ボールの巨大迷路、缶切りを使って缶詰

を開ける体験コーナー、乾パンの早食い競争、さらに、おにぎりやすいとん、おしるこなどが振る舞われるなど、楽しい一日でした。

他の活動同様、楽しくやりたいという気持ちで夜遅くまで、しかし楽しみながら準備したスタッフの思いどおり、楽しい「防災訓練」となりました。

なお、この訓練では防災倉庫の中身や、食料庫の鍵の所在、防災無線の設備を確認できたことなど、得たものはとても大きかったそうです。



はじめての缶切り

さまざまな事業を積極的に展開

年2回開催している「ふれあいサロン」も、やはり主役は子どもたち。ふれあいサロンの日はカレーを作って振る舞うのが恒例となっており、子どもたちは「カレーの日」と呼んで毎回楽しみにしています。今年の7月には子どもたちが仮装した写真や短冊を貼り付



子どもたちに大人気の「カレーの日」

けた大きな天の川のパネルを作りました。以前には、段ボール製の巨大な迷路や、風船に魚の絵を描き室内に水族館を作るなど、まさしく子は“宝”を実践しています。

もちろん子どもたちだけでなく、12月には、90歳以上の方にクリスマスケーキをプレゼントしたり、菱田小学校の子どもたちに、80歳以上の方々へ年賀状を書いてもらうなど、高齢者の方々に大切にする事業も数多く行っています。

今後の課題

長い歴史を持つ菱田小学校ですが、町内に3つある小学校の統廃合により、今年度でその役割を終えることになりました。

菱田地区社協は、その校舎や校庭を地域の人々が気軽に集える交流の場にしたいと考え、全戸からアンケートをとるなどして、現在、その課題に全力で取り組んでいます。

「何か良いアイデアがあれば、教えていただきたいですね」と、菱田地区社協の委員の方々。

そしてこれからも、子どもたちを主役とした活動を進めていくとのことです。



子どもたちから高齢者への手づくり年賀状

芝山町社会福祉協議会

1食200円のお得な「給食サービス」ぜひ、ご利用ください!

芝山町社会福祉協議会（以下、芝山町社協）は、従来の地域における福祉事業や、在宅福祉サービス事業などに加え、本年度から、福祉センター「やすらぎの里」の指定管理者となり、また、「老人クラブ連合会」の事務局業務を担うなど、徐々に事業規模を広げています。

芝山町には、現在7つの地区社協があり、それぞれに特色があることから、個々のニーズに合った対応を心がけています。

現在、その7つの地区社協と協働で取り組み力を注いでいるのが「給食サービ

ス事業」です。

町内在住の高齢者や、在宅介護が必要な方々に、月2回、夕食のおかずをお届けするこの事業は、味はもちろん、健康面や旬の素材を使うなど、様々な配慮をしています。

しかも、今年度から料金を値下げしました。これまでは1食300円でしたが、今年度からは1食200円でご提供しています。ボリュームもありデザートも付いているので、とてもお得だと思います。

この「給食サービス事業」には、高齢者の方々の安否確認や、見守りにつな



芝山町社協の主事 瓜生一貴さん、副主査 五木田亮さん

るといふ側面もあるため、ぜひ、多くの人に利用していただきたいですね。

今後についてですが、芝山町の人口は現在約8,000人。超高齢社会となっている本町では、ボランティアの方々の世代交代を考えなければいけない時期にきています。

ボランティア活動に興味のある方は、ぜひ、芝山町社協までご連絡ください。

※芝山町人口：7,777人 65歳以上人口：2,255人 高齢化率：28.99%（平成26年7月現在）

「まつど市民活動サポートセンター」(以下、「まつどサポセン」)は、松戸市でボランティアやNPOなどの活動に取り組んでいる人々をサポートする機関として様々な事業を展開しています。

特に毎年夏に開催される若者向けの夏休みボランティア体験講座「Let's体験」は、200名の定員を超える申し込みがあるほどの人気講座となっています。

今回はその講座の人気の秘訣に迫ってみました。



受入団体による参加者へのアピール

若者向けの夏休みボランティア体験講座「Let's体験!!」

「まつど市民活動サポートセンター」の取り組み

200名と36団体が参加した「Let's体験2014」とは

若者向けの夏休みボランティア体験講座「Let's体験」は、中学生から20歳代を対象として行われています。まつどサポセンでは体験申し込みがあった際に一人ひとりと面談を行い、参加希望者の想いや希望等を丁寧に聞いたうえでアドバイスをしています。その後、参加者はオリエンテーションに参加し、受入団体のアピールタイムを聞いた上で、自分が体験したい団体を決め、2日間以上または2団体以上でボランティア体験をするというプログラムです。

オリエンテーションの工夫

7月12日、Let's体験の参加希望者



エクササイズを取り入れたオリエンテーション

200名のうち170名と36の受入団体が一堂に会し、オリエンテーションとマッチングの場が設けられました。

通常、オリエンテーションと言えば、「説明を聞くだけ」と考える人が多いと思いますが、「Let's体験」のオリエンテーションは一味違います。

「Let's体験」では参加者の五感に訴え、コミュニケーション力を引き出し、自分の思っていることを表現しやすくすることを目的として、体を動かしたゲームやエクササイズを取り入れています。そこで活躍するのがファシリテーターと呼ばれる進行役の学生たちです。

ファシリテーターの役割

オリエンテーションにおいて参加者はまず14名ずつのグループに分けられ、それぞれのグループにファシリテーターが付きまします。ファシリテーターは参加者が話しやすい環境を整えたり、意見を引き出したりする重要な役割を担います。

まつどサポセンでは、ファシリテーター向けに「Let's体験 ファシリテーター養成講座」も開催しています。大学生などに任せている理由は参加者との年齢が近ければ意見などを引き出しやすいと考えているからとのこと。



どの団体に参加するか、グループで相談中

アピールタイムとマッチング

午後から行われるのが「マッチングの会」。ここでは、最初に受入団体である大人たちがアピールタイムを行います。

どの団体も参加者に体験先として選んでもらおうと、ゆるキャラを登場させたり、手作りのプラカードを作ったりと、色々な手段を用いて必死にアピールします。

アピールタイムを受け、参加者はファシリテーターを中心にグループ内でどの団体で体験するかを相談します。その後、各自で意中の団体のブースに赴き、日時や内容などが折り合えばボランティア体験の参加を申し込み、もし折り合わなければ次の希望団体へ行くというシステムとなっています。

全員がマッチングできたらこの日は終

了となります。

活動と振り返り

参加者は8月中旬にそれぞれが選んだ団体でボランティア体験をします。体験内容は千差万別、団体によって異なります。

そして8月30日に「ふりかえりの会」を行います。ここでもグループに分かれ、「未来につなげる」をテーマに、活動を通して得たことや、経験を将来どう活かしていきたいかといったことを話し合いました。

最後に「活動修了証」が授与され



ボランティア体験の参加を申し込む

「Let's体験」は終了となります。

顔の見える関係の構築が人を集める

「Let's体験」は、初年度、わずか参加者17名、受入9団体からスタートしました。その後、徐々に参加者や受入団体が増加していきました。

これほど人が集まるようになった最大の理由は「顔の見える関係を築くこと」ができたから。

例えば、スタッフが駅前の商店街に行き、店主一人ひとりに丁寧に趣旨を説明し、ポスターを貼ってくれるよう頼むこともしました。各団体に対しても手間や時間を惜しまず、相手にこちらの気持ちを理解してもらうことが何より大切だと考え、働きかけていきました。

学校との関係も大きな力に

「Let's体験」のポスターや冊子は地元の中学生に描いてもらっています。これをお願いするため中学校に行けば、先生や美術部の生徒さん達と出会い、こころの見える関係が築けます。刷り上がったポスターには描いた生徒さんの名前が記され、それを見た子どもたちは身近な人物が描いたことに興味を持ちます。小さな波紋が大きく広がっていくのです。

加えて、何度も学校に足を運び、この事業が子どもたちへ与える重要性を説明し理解してもらえるよう努めました。そうした取り組みを積み重ねることで、教育委員会や校長会とつながることができました。結果、市内の学校と連携が取りやすくなりました。

「Let's体験」をはじめ、「まつどサポセン」が展開する様々な事業を通じて、新たに地域で活躍する若者たちの登場が今から楽しみです。

やってみました!! ボランティア体験

体験者の感想



体験の様子(竹の伐採体験)

この夏の体験を忘れない

中学3年 村上 葉月さん

今回、「子ども漫画クラブ」という団体にボランティアに行きました。最初は「アシスタントスタッフ」として、受講生にしっかりアドバイスしないといけないと頭がいっぱいで、結局、どう接していいのかわからなくなってしまい、これではダメだなと思っていました。しかしその日の反省会で「無理にアドバイスしようとせず、ただ受講生の話し相手になってくれれば良い」と言われ、次からはもっと気軽にやってみたら、受講生と話が盛り上がりとても気持ちも軽くなりました。

これからの自分にできることは、この夏の体験を忘れないことだと思います。この先、苦しい時に「あの夏はあんなにボランティアをしたな」と、思い出すだけでも自分の心の支えになります。受験生なので参加しにくくなりますが、これからも、ボランティアにどんどん参加したいと思っています。

人の心が読めたらいいな

中学3年 内海 渚さん

心に残ったのは、スタッフの方一人ひとりが楽しく活動している姿です。どんなに大変でもそんな顔を見せずに、やり切るところがすごいと思いました。初めて会った人にも、気軽に話しかけたり、困ったときは優しく教えてくれたり、とても頼れる人ばかりでした。

今回活動をして、「人の心が読めたらいいな」と思いました。上手にしゃべれない人たちの心の声を聞き取ることができれば、もっと人の役に立てるのではないかと……。手話や点字を覚えようかな。

これからは子どもや高齢者に対する接し方などをしっかりと理解して、自分から周りを見て行動し、もっと社会に貢献できるように、たくさんのボランティアに関わりたいです。

活動の意義をアピール

受入団体からの声

「Let's体験」には、開始当初から参加しています。参加のきっかけは、当時団体のアピールの場がなく、他団体との関わりを持つことも難しかったためです。受入団体になったことで若い人たちにも活動内容や意義を知ってもらえ、団体として活気が出ました。次世代の活動者の育成のためにも今後も積極的に受け入れていきたいと考えています。

「Let's体験」人気の秘訣

- 参加希望者一人ひとりと面談を行い顔の見える関係をつくること。
- 参加者に近い年代の大学生などがボランティアとして協力していること。
- 受入団体へ意識の共有化を図るために丁寧に働きかけること。
- ポスター、チラシ等を同世代に描いてもらい親しみやすくすること。
- 学校に出向き、教職員と信頼関係をつくること。

近年広がりつつある新たな福祉のカタチ「もったいない」精神を大切に

「フードバンクちば」の活動とは？



フードバンクちば 代表 菊地 謙 さん



寄付された食品



フードドライブ実施時の八街市社協の様子

「フードバンク」とは、賞味期限が迫っていたりパッケージの印刷をミスしたなどの理由により、まだ食べられるにもかかわらず販売することのできない食品を企業や個人の方から寄附していただき、生活困窮者などに無償で提供する活動をいいます。1960年代にアメリカで始まり、日本初のフードバンクの団体は2002年に東京で設立されました。2012年5月、千葉県初のフードバンク「フードバンクちば」が千葉市を拠点に活動を開始。その活動内容を、「フードバンクちば」代表の菊地謙さんにお聞きしました。

「フードバンクちば」の活動内容を教えてください。

日本では現在、まだ食べられるにもかかわらず破棄されてしまう、いわゆる「食品ロス」が年間約500～800トンもあると言われています。

フードバンクちばでは、そのような食品を企業や団体、そして個人などから寄附していただき、必要としている人に無償で提供する活動をしています。

食品はどのようにして集めるのですか？

大きく分けて2つあります。1つめは、食品メーカーや小売店、レストランなどといった企業からの寄附です。食品メーカーからは、賞味期限が近い、箱や缶に汚れがある、パッケージの印刷ミスなどといった理由でものをいただくことが多いですね。

食品メーカー以外の企業からも、期限

切れの迫った防災備蓄品や、パチンコの景品などをいただくことがあります。

2つ目は、個人からの寄附です。フードバンクちばでは年3回、「フードドライブ」という約1ヵ月半にわたるキャンペーンを実施しています。一部の市町村社会福祉協議会（以下、市町村社協）やNPO法人、中核地域生活支援センターなどに窓口になっていただき、ご家庭で余っている食品などを集めています。

現在、フードドライブの窓口は県内で

50ヵ所あり、今年の5月中旬から行った第7回目のフードドライブでは、約2.2トンもの食品を寄附していただきました。

そのようにして集まった食品は、2012年5月から2013年3月までの統計で約32.1トンにもなります。

食品の提供先について教えてください。

個人や世帯への提供に関しては、基本的に市町村や市町村社協、中核地域生活支援センターなどを通して要請を受け、宅配便でお届けしています。

2014年の7月は104件の提供を行いました。個人や世帯への提供は徐々に増える傾向にあります。

さらに、障害者支援施設、高齢者福祉施設、児童養護施設など、県内の各種団体や施設に提供しています。

「フードバンクちば」はどのように利用するのですか？

フードバンクちばの支援はあくまで一時的なものであり、恒久的に食品を送り続けることはできません。

また、中には直接こちらに電話をかけてきて、「食べ物を送って欲しい」と言われる方もいますが、電話での会話だけでは支援対象になるかどうか判断し兼ねるため、まずは市町村や市町村社協、中核地域生活支援センターなど、しかるべき組織に相談するなどして、生活課題の解決に向けて、支援を受けていただくことを条件にしています。

支援を求める方の特徴を教えてください。

2012年6月から2014年3月までの統計ですが、年齢的には40代が最も多く、次いで50代、30代となっています。性別では男性6割、女性4割と

いったところでしょうか。生活に困っている理由については、病気、離婚、失業など様々ですが、これは日本人の気質なのか、本当にギリギリの状態にならないと支援を求めてこない傾向が見られるので、民生委員さんなどから、もっと気軽に利用するよう勧めていただくと嬉しいですね。

「フードバンクちば」の今後について

将来的には食品だけでなく働く場も提

供し、本当の意味での生活改善へとつなげられる、そういった仕組みを作りたいと考えています。

しかしそれは、フードバンクちばの力だけでは難しく、官・民さまざまな団体との連携が必要となるでしょう。

活動を始めて3年目となりましたが、利用件数は増え続けているため、これまで以上にたくさんの食品が必要となっています。

これからも、フードバンクちばの活動に、多くのご協力をよろしくお願ひします。

フードドライブを下記日程で開催しますので、ぜひご協力ください。

第8回フードドライブ 2014年9月16日(火)～10月31日(金)

第9回フードドライブ 2015年1月13日(火)～2月27日(金)

フードバンクちば

〒263-0023 千葉市稲毛区緑町1-25-11 コーポ立花101
 電話：043-375-6804 FAX：043-242-8900
 〈ホームページ〉<http://foodbank-chiba.com> 〈Eメール〉fbchiba@jigyoudan.com

フードバンクちばからのお願い

〈寄付していただきたい食品〉

- 穀類（お米、麺類、小麦等）
- 保存食品（缶詰、瓶詰等）
- インスタント食品・レトルト食品
- 飲料（ジュース・コーヒー・お茶等）
- ギフトバック（お歳暮・お中元等）
- 乾物（のり・豆など）
- 調味料各種、食用油

注意いただきたい点

- ①賞味期限が明記され、かつ1ヵ月以上あるもの
- ②常温で保存が可能なもの
- ③未開封であるもの
- ④破損で中身が出ていないもの
- ⑤お米は常識の範囲内で古くないもの

〈ご寄付のお願い〉

みなさまのご寄付や協賛金を受け付けております。活動へのご理解・ご協力どうぞよろしくお願ひいたします。ご協力には下記郵便振替口座をご利用ください。

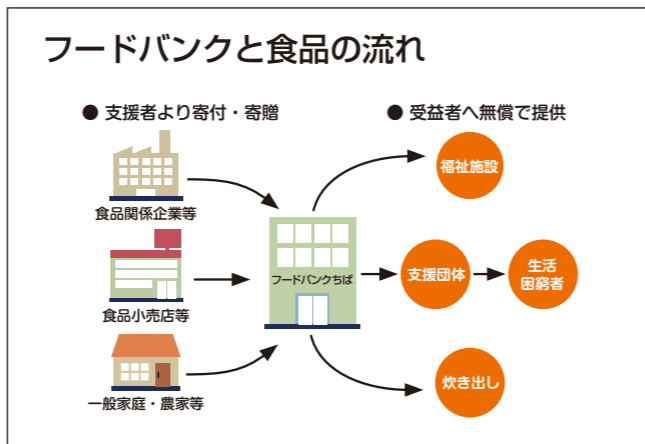
- 郵便振替口座
 口座名義：フードバンクちば
 口座番号：00150-2-652117

●ゆうちょ銀行以外からの振込先

- 銀行名：ゆうちょ銀行
- 種別：当座
- 支店名：〇一九店
- 口座番号：0652117
- 口座名義：フードバンクちば



フードバンクちばに集まったたくさんの食品



第2回「福祉のしごと就職フェア・inちば」

■日 時：平成26年11月9日(日)13:00~16:00
 ■場 所：幕張メッセ 国際会議場・コンベンションホール他
 ■対 象：社会福祉施設(事業所)等へ就職を希望する方
 ■内 容：①求人のある施設・事業所との個別面談
 ②福祉の仕事に関する相談コーナー
 ③福祉人材センターへの求職登録
 ■参加方法：当日会場へ直接お越しください。
 ■問合せ先：千葉県福祉人材センター
 TEL:043-222-1294

講演会「自分らしく生きる」
一人間の尊厳を守る成年後見制度

■日 時：平成26年11月14日(金)13:30開演
 ■場 所：千葉県ふれあいホール(JR我孫子駅徒歩1分)
 ■内 容：認知症になっても、最後まで人間らしく生き、人間らしい尊厳を守ることについての講演
 ■講 師：新井 誠(成年後見法学会理事長 中央大学教授) 高藤修一(品川成年後見センター所長)
 ■定 員：無料(定員400名)
 ■参加方法：住所、氏名、電話番号を記入のうえ、FAXにて下記問合せ先までお申込みください。
 ■問合せ先：東葛市民後見人の会事務局
 TEL・FAX:04-7187-5657(担当:星野)

調停相談会

■日 時：平成26年11月15日(土)10:00~15:30
 ■場 所：千葉市文化センター、鎌取コミュニティセンター、サンロード津田沼、八千代市役所、サンプラザ市原
 ■内 容：金銭・土地建物・交通事故・離婚・扶養・相続などをめぐる紛争に関して、裁判所の調停委員(弁護士を含む)が、調停で解決する手続きについて無料で相談に応じます。
 ※訴訟または調停係属中の事件や電話による相談には応じられません。
 ■参加方法：当日会場へ直接お越しください。先着順。
 ■問合せ先：千葉地方裁判所・千葉家庭裁判所 総務課庶務係
 TEL:043-222-0165(代)

とうがね社協ひろば
ふれあいクラシックコンサート

■日 時：平成26年11月15日(土)13:30~15:30
 ■場 所：東金市保健福祉センター(ふれあいセンター) 2階視聴覚室
 ■内 容：弦楽四重奏などの生演奏
 ■参加費：500円(定員50名 先着順)
 ■参加方法：電話・FAXにて下記問合せ先までお申込みください。
 ■問合せ先：東金市社会福祉協議会
 TEL:0475-52-5198 FAX:0475-52-8227

第6回 鋸南町ボランティアのつどい

■日 時：平成26年11月16日(日)13:00~15:30
 ■場 所：鋸南町立中央公民館
 ■内 容：◆ボランティアグループの活動発表(ステージ発表、体験ブース等)
 ◆中学校吹奏楽部の演奏
 ◆小学校JRCの活動発表
 ■参加費：無料(予約不要)
 ■主 催：鋸南町ボランティア連絡協議会
 ■問合せ先：鋸南町社会福祉協議会
 TEL:0470-50-1174(担当:吉田)

第40回県民福祉セミナー

■日 時：平成26年11月24日(月・祝)10:00~15:30
 ■場 所：千葉県経営者会館 6階大ホール
 ■テ ー マ：災害にも強い地域をつくろう
 ~男女共同参画の視点から見た災害時要援護者への対応~
 ■参加方法：下記問合せ先まで事前にお申込みください。
 ■問合せ先：千葉県男女共同参画センター
 TEL:043-252-8036

ちばの町を良くするしくみ

ひとりひとりのやさしさが、あなたの町を、もっとやさしくしてくれます



平成26年度 第68回 赤い羽根共同募金

平成26年10月1日~12月31日



本年度も10月1日から全国一斉に赤い羽根共同募金運動が始まります。皆さまのやさしさに支えられながら今年で68回目を迎えます。共同募金は法律により事前に使いみちや集める額(目標額)を定めることとされている募金です。集められた募金は、地域福祉推進のための計画に基づいて活用されますので、共同募金の趣旨をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。よろしくお祈りいたします。

平成26年度募金目標額	
赤い羽根募金	500,000,000円
市町村歳末たすけあい募金	250,000,000円
NHK歳末たすけあい募金	30,000,000円
合 計	780,000,000円



集められた募金は、福祉施設の送迎用車両や備品の整備・修繕等、地域福祉事業・在宅福祉活動への支援等へ役立てられます。



お年寄りのために(市川市)



被災者のために(旭市)



子どもたちのために(木更津市)



障害者のために(大多喜町)

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

平成26年度

全国200万人 加入!!

http://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険 検索

補償金額(保険金額)

保険金の種類	プラン	
	Aプラン	Bプラン
死亡保険金	1,200万円	1,800万円
後遺障害保険金	1,200万円(限度額)	1,800万円(限度額)
入院保険金日額	6,500円	10,000円
手術保険金	入院中の手術	65,000円
	外来の手術	32,500円
通院保険金日額	4,000円	6,000円
賠償責任	賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)
		5億円(限度額)

年間保険料

タイプ	プラン	
	Aプラン	Bプラン
基本タイプ	300円	450円
天災タイプ*	460円	690円

*天災タイプでは、天災(地震・噴火・津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

保険金をお支払いする主な例

- 清掃ボランティア活動中、転んでケガをした。(ケガの補償)
- 活動に向かう途中、交通事故にあった。(ケガの補償)
- 活動中、食べた弁当でボランティア自身が食中毒になった。(ケガの補償)
- 家事援助ボランティア活動で清掃中、誤って花瓶を落としてこぼした。(賠償責任の補償)
- 自転車ボランティア活動に向かう途中、誤って他人にケガをさせた。(賠償責任の補償)

ボランティア行事用保険 送迎サービス補償 福祉サービス総合補償

●お申込み、詳しい内容のお問合せは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
 (引受幹事保険会社) 日本興亜損害保険株式会社
 TEL:03(3593)6245

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
 受付時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
 この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

日本興亜損保と損保ジャパンは、関係当局の認可等を前提として、平成26年9月1日に合併し、「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」になります。(NK13-80727 平成26年2月12日作成)

“つかいみち”を選べる募金 使途選択募金 平成26年10月1日~平成27年3月31日

私たちの活動を応援してください!!

期間拡大しています!

- 1 被災者・被災地支援
- 2 児童養護施設等卒園者の就職進学祝い金
- 3 ホームレスの自立支援
- 4 認知症出前交流会(つどい)支援
- 5 原爆被爆体験、語り部活動支援
- 6 チャイルドライン・ママパパライン・乳幼児と親のためのおしぼい
- 7 フードバンク活動支援
- 8 いのちの電話(自殺予防活動)
- 9 小児がんの子どもたちへの支援

振込先:千葉銀行本店 普通預金 3925580(福)千葉県共同募金会
 使途選択番号をお振込欄に必ずご記入ください。
 また、振込手数料のかからない専用振込用紙がございます。
 下記へお問合せください。

社会福祉法人 千葉県共同募金会
 千葉市中央区千葉港4-3社会福祉センター
 TEL:043-245-1721 FAX:043-242-3338
 MAIL:c-kyoubo@akaihane-chiba.jp
 URL:http://www.akaihane-chiba.jp/



「福祉のしごと就職フェア・in ちば」を開催、ガイドブックも発行!



7月13日、幕張メッセにて、第1回「福祉のしごと就職フェア・in ちば」を開催しました。社会福祉施設等への就職を希望する方に対して各施設・事業所のブースにて個別面談が行われたほか、福祉の仕事に関する相談コーナーも設けられました。当日は、158の施設・事業所がブースを設置し、626名の参加者が会場を訪れ、会場のあちこちで、熱心に施設・事業所職員の説明に耳を傾ける参加者の姿が見られました。



多くの参加者がブースを訪れました

千葉県福祉人材センターでは、福祉の仕事に関するガイドブック「福祉のしごとINFORMATION」を作成しています。社会福祉施設の種類と目的、福祉の職場で役立つ主な資格とその取得方法などについて分かりやすく紹介しています。



興味のある方は、下記問合せ先までご連絡ください。

【問合せ先】 千葉県福祉人材センター
TEL 043-222-1294 FAX 043-222-0774
業務時間/月曜～土曜 10:00～18:00

福祉教育研究県大会を開催しました

8月19日、淑徳大学千葉キャンパスにて「平成26年度千葉県福祉教育研究県大会」を開催しました。学校関係者、市町村・地区社会福祉協議会関係者など、240名の参加がありました。



佐藤陽教授

当日は、福祉系の学校へ進学していたり、介護体験やボランティア活動を行ったことのある高校生・大学生へ、進学や活動の動機・感想などについてインタビューを行い、若者たちの等身大の声を聞くことができました。その後は、十文字学園女子大学教授の佐藤陽先生をお招きし、「学校や地域が協働して行う福祉教育の意義」と題してご講演をいただきました。佐藤先生からは、ワークキャンプを通しての福祉教育や福祉教育推進プラットフォームについてなど、福祉教育実践の重要な視点について事例を交えながら分かりやすくお話がありました。

午後は6つの分散会に分かれ、福祉教育推進校として3年間の指定を受けた小・中・高等学校および同じく指定を受けた福祉教育推進団体より、3年間の取り組みに関する実践発表が行われました。各分散会とも学校と地域の連携による福祉教育のあり方について熱心に議論が行われました。



真剣に話を聞く参加者

PICK UP!

ご存じですか? 教育支援資金

千葉県社会福祉協議会では、生活福祉資金の貸付を行っています。今回は、生活福祉資金の中の一資金である、教育支援資金についてご紹介します。

教育支援資金とは…

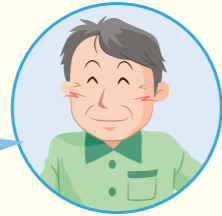
低所得世帯に属する方が、高等学校・大学等に就学する、あるいは入学する際に必要となる費用を貸し付けます。



高校生 Aさん

学校の先生になるのが私の夢。夢を叶えるために大学に進学したい!でも、授業料が高くて私の家では払えないかもしれない。どうしよう…

貸付条件にあてはまれば、高校や大学に入学・就学するための費用として教育支援資金の貸し付けを受けることができますよ!



Aさんの住む町の民生委員

資金の種類	貸付限度額	償還期限	据置期間	貸付利率
教育支援費 (就学するのに必要な経費)	<高校> 月35,000円以内	原則 10年以内 (最長 20年以内)	卒業後 6カ月以内	無利子
	<高専・短大> 月60,000円以内			
就学支度費 (入学に際し必要な経費)	50万円以内			

注) 1. 相談、申込みから返済に至るまで、民生委員が相談支援を行います。
2. 他制度が利用できる場合はそちらが優先となります。
3. 貸付にあたっては、利用目的・返済能力を含めた審査を行います。

詳細はお住まいの地域の民生委員、市町村社会福祉協議会または下記問合せ先までご相談ください。

■問合せ先 千葉県社会福祉協議会 福祉資金部
千葉市中央区千葉港4-3 (千葉県社会福祉センター内)
TEL:043-244-2945 FAX:043-241-8294
業務時間:月曜～金曜 8:30～17:15

生活福祉資金とは?

低所得世帯・障害者世帯・高齢者世帯に対して、資金の貸付と民生委員及び社会福祉協議会とが必要な相談支援を行うことによって、その世帯の経済的な自立と生活の安定を図ることを目的とする貸付制度です。

いきいきはたらく



利用者に安心と安全、そして温かい父の支え

社会福祉法人 父の樹会「あけぼの園」



社会福祉法人 父の樹会「あけぼの園」は、知的障害を持つ方々のための生活介護・就労継続支援B型事業所です。父の樹会という名称は、障害を持つ子どもたちを母親任せにせず、父親が中心となって守り育てようという主旨から名付けられ、コーヒーの幼木を守る大きな木を描いたシンボルマークにもその意味が込められています。現在、18～53歳までの幅広い年齢の利用者が在籍。日々、いきいきとした笑顔で作業に取り組み、そこから生み出される様々な製品は、各所で高い評価を得ています。

利用者の適性に合わせた支援が可能

現在、あけぼの園では利用者に対し、作業、生活、余暇の、大きく分けて3つの支援を行っています。

作業支援には、木工科、手工芸科、園芸科、下請け科、食品加工科があり、利用者の適性に合わせた支援を行っています。それぞれの科で作られる、利用者の実直な姿勢を反映した様々な製品は、高品質でリーズナブルと評判です。



女性ファンの多い2種類のチップス

食品加工科で生み出される自慢の逸品は、「フルーツチップス」と「やさいチップス」(各200円税込)。競争力があり、なおかつリピーターが見込める製品を目指し、油で揚げない健康志向のチップスを開発。色々なフルーツや野菜を試し、焼く時に色が変わらないように温度や時間を調整するなど試行錯誤を繰り返し、製品化まで約半年かかった労作です。

どちらもヘルシー志向の女性に人気があり、特に「やさいチップス」は野菜がきらいな子どもでも食べられるのが自慢とのこと。ぜひご賞味ください。



「はーとふるメッセ・オブ・ザ・イヤー」を受賞した木のおもちゃ

木工科で主に作られているのは幼児用の木のおもちゃ。ふしの無い白木を使用し、塗装は施さないなど、子どもたちの安心・安全を第一に考えて作られているため、幼児がなめても安心です。

特におすすめしたいおもちゃは「恐竜エッグ」(1,800円税込)。大きな卵の中にたくさんの恐竜がギュッと詰まった、もはや職人技とも呼べるこの木のおもちゃは、「はーとふるメッセ・オブ・ザ・イヤー2013」において、「テレビ朝日福祉文化事業団大賞」の「優秀賞」を受賞。プレゼントにも喜ばれるそうです。



安心・安全、そして利用者の笑顔を最優先に

利用者に対して無理強いをせず、安心・安全、そして笑顔で作業できる環境を常に心がけているというあけぼの園。

ほかにも、手工芸科で織り機を使って作るランチョンマットやコースター。園芸科で有機栽培で育てる野菜など、良質な製品が盛りだくさん。

これらの製品は「千葉市ハーモニープラザ」内にある「はーとふるメッセ千葉寺店」などで購入できますが、品切れとなっている場合もあるため、事前にお問い合わせを。



●詳細はお電話か下記ホームページでご確認ください。

社会福祉法人 父の樹会 あけぼの園

〒263-0001 千葉市稲毛区長沼原町321-2 TEL.043-250-5992 FAX.043-250-5982 http://chichinokikai.web.fc2.com/akebono.html

福祉の資格 と わたしの仕事

介護福祉士

介護福祉士歴14年目
社会福祉法人 翠輝会
特別養護老人ホーム グリーンヒル
グリーンヒル指定訪問介護
サービス提供責任者



さくち えみ
菊地 恵美さん

表紙の人



●家庭と仕事の両立は大変ですか？

結婚、出産、子育てなどを経験する中で、仕事との両立は難しいと思い辞めようと考えたことも何度かありました。でも、相談した上司が「もう少し頑張ってみたら」と言ってくれたことや、同僚の励ましやサポートもあり今日まで続けてこられました。そして何より、やはり私はこの仕事はもちろん、おじいちゃん、おばあちゃんが好きなのだと思います。

家庭と仕事の両立で悩む人は多いと思いますが、楽しくいきいきと仕事をしていれば、周りの人たちもきっと協力してくれるのではないのでしょうか。

●印象に残ったエピソードは？

施設で旅行に行った時、認知症の利用者の方が大浴場に入るなりスタスタと歩いて洗い場へ行き、桶と椅子を使って体を洗い始めたのです。普段は食事や排泄など、すべてを介助していた方がです。そのシーンを見た時はすごい衝撃を受けました。同時に「環境を整えればできるのに、普段は自分たちがやらせてあげなかっただけなのでは？」という思いが頭をよぎり、それが施設の環境を整えるきっかけになりました。

●今後の目標を教えてください

ケアマネジャーの資格も持っていますので、その資格を生かして働いてみたいという気持ちもありますが、今はまだ訪問介護の現場にこだわりたいですね。訪問介護は利用者のお宅へ伺って仕事をするため、キッチンやトイレの位置や形式など、10軒あれば10軒違います。違う環境でいかに適切な仕事ができるかが、介護職の腕の見せ所だと思います。また訪問介護という仕事に関しては、今後、身体介護が増えると考えられるため、病気や医療の分野なども深く理解している介護福祉士が、より力を発揮できると考えています。

●これから介護福祉士をめざす人へメッセージを

介護の仕事に関しては各種メディアなどの影響で、3K職というイメージを抱いている方もいると思います。しかし、決してそんなことはありません。大変ではありますが、それ以上に楽しさもある仕事です。特に、訪問介護は週に数回、短い時間からでもできるので、再就職を目指すお母さんたちでも始めやすいと思います。お勧めですよ。「お年寄りが好き！」という人であればきっと勤まります。よろしければ、一緒に働きませんか！

●現在の仕事内容を教えてください

5年前までは特別養護老人ホームで介護福祉士として働いていましたが、今は訪問介護の責任者として仕事をしています。週のうち3分の2は事務的な仕事、3分の1は現場に出ています。現場の仕事内容としては、利用者のお宅を訪問し、お掃除やお料理、そして身体介護などを行っています。

●この仕事に就こうと思ったきっかけは？

お年寄りが多い田舎で育ったためか単純におじいちゃん、おばあちゃんが好きだったんです。実家では祖母と一緒に暮らしていましたが認知症になってしまい、その頃から将来は福祉の仕事に就こうと考えはじめ、大学で福祉を学び卒業してすぐこの施設に就職しました。

●喜びややりがいを感じるのはどのような時ですか？

やはり「あなたがいてくれて良かった」という言葉をいただいた時ですね。訪問介護の時は「待ってたよ」と言われるのも嬉しいですし、利用者だけでなくご家族も待っていて、色々な相談を受けたり、ずっとお話を聞いていることもあります。



介護福祉士
になるためには...

介護福祉士の資格を取得するには、介護実務経験3年以上、もしくは福祉系の高等学校等で所定の科目を修めて卒業したうえで「介護福祉士国家試験」を受験し合格する方法と、養成施設を修了する方法があります。詳細は下記まで。

■問合せ先 公益財団法人 社会福祉振興・試験センター ホームページURL <http://www.sssc.or.jp/>

